

むくのきだより



5月号 平成27年5月1日 港区立赤羽幼稚園長 小鹿原 賢

子どもの遊びと雲梯

園長 小鹿原 賢

5月。幼稚園の砂場の上に、鯉のぼりが風に誘われて気持ちよさそうに泳いでいます。幼稚園から見える赤羽の草木の緑も鮮やかで、子どもたちの元気な姿が見られます。

4月は、始業式や入園式など始まりの月で、喜びと不安が入り混じった時期ですが、赤羽幼稚園の子どもたちは元気よく園生活をスタートできました。これも、幼稚園教育へ子どもを託す期待とご家庭の温かい愛情があってこそのことであると考えています。

保護者の方も一緒に朝のあいさつと園児一人一人と握手することは、教育に携わる者として、この上のない喜びであり教育に対する責任を自覚します。また、この時の子どもの「おはようございます!」の声と握手の力で、子どもの様子を観る努力をしています。

幼稚園の子どもたちは、滑り台やジャングルジム、ブランコなどの固定遊具が大好きです。赤羽幼稚園の裏庭にある雲梯は、子どもたちの人気の一つです。入園式からまだ10日も経っていない2週目の日、4歳児さくら組の子ども何人かが、雲梯をして遊んでいました。運動経験の未熟からまだ難しいかな、と思っていましたが、できる子どももいるのです。端から端までできた子どもやぶら下がりができた子どもは「どうだ。」という自慢顔を私にして見せます。「園長先生、見てて。」と、前の友達に続けと、やってみる子どももいます。「達成と再現」「挑戦」は子どもの成長には欠かせません。子どものたくましさに触れることができました。



子どもが作った鯉のぼりが5月の緑の中で泳いでいます。そう言えば、私にもこんな時期があったな、とはるか昔を思い出します。

